

体感するトイレ



01 設計趣旨 「大学がある街」で「トイレ」を再考する

大学とは社会のためになるように、既存の価値観に囚われず、常に物事の新しい可能性を探求し続ける場です。

そこで相応しいトイレとは、用を足すだけのいわゆるインフラとしての機能性に終始したものではありません。

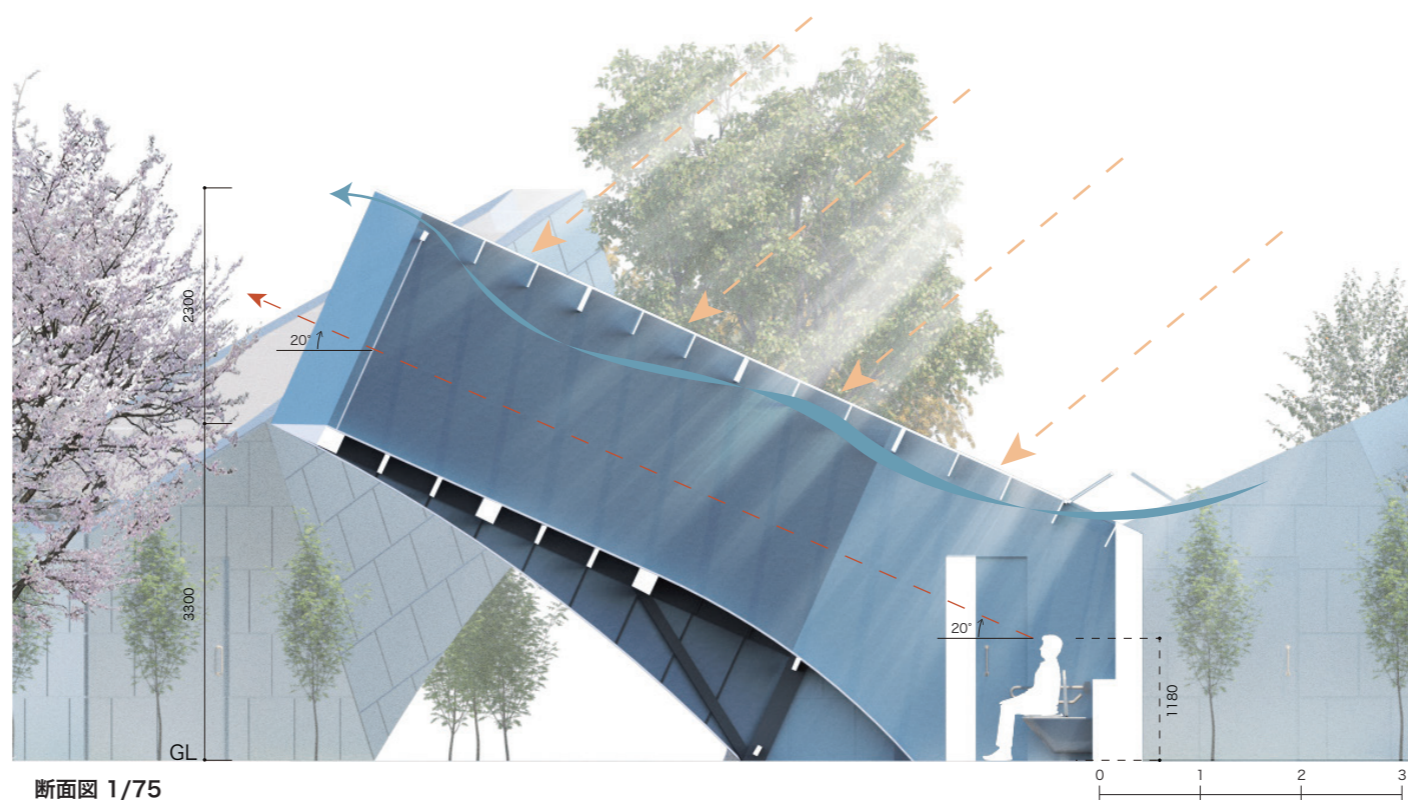
「都市のなかで完全に一人きりになることのできる希少な公共空間」という公共トイレが本来備えているポテンシャルを追求することで、従来のトイレの価値観に囚われない新たな都市要素としての公共トイレを街に生み出します。

02. 提案 豊かな空間体験を付加する

本提案では、個室のあり方を根本から組み直し、教会や美術館のように多くの人が感性を刺激されるような豊かな空間体験を、以下の建築の手法によって排泄行為に付加します。

- 03. プライバシーを守りながら景色を引き込む断面計画
- 04. 構造合理性と経済性を両立させる構造計画
- 05. 誰もが好きな個室を自由に選択できる平面計画

都市の中に誰もが平等に、かつ一人きりになれる。そして街の喧騒から離れ、ふと感性を揺さぶる体験ができる。そんなトイレとは思えない、しかしトイレだからこそ実現可能な公共空間を提案します。



断面図 1/75

03. 断面計画 プライバシーを守りながら景色を引き込む

緑と青空をフレーミングする

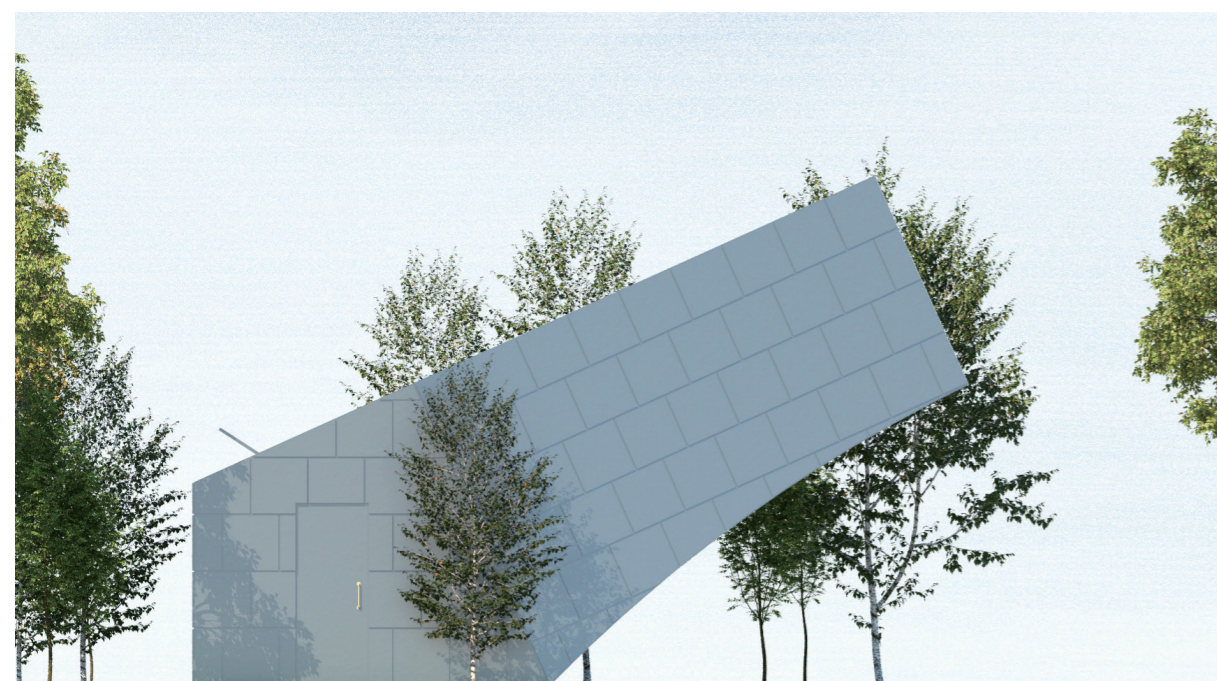
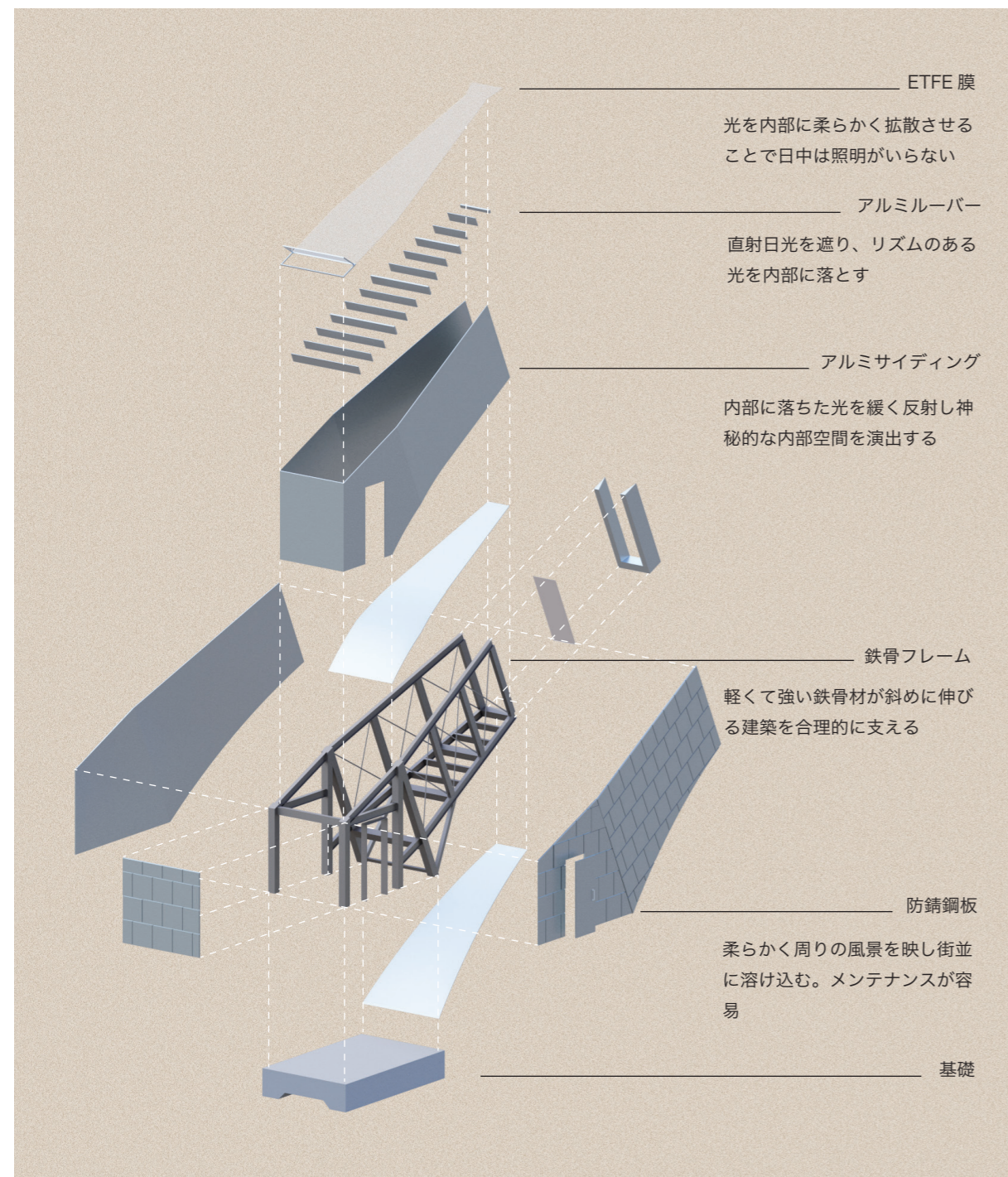
快適な空間を得るために、個室を閉じられた箱として作るのではなく、外部の環境をできる限り内部に取り込むことを考えます。そこでまず、どの個室からも安定した眺望を得るために長い筒状のボリュームを斜めに配置し、先端に開口部を儲けることで植栽と青空を内部からフレーミングします。

人間工学に基づいた構成

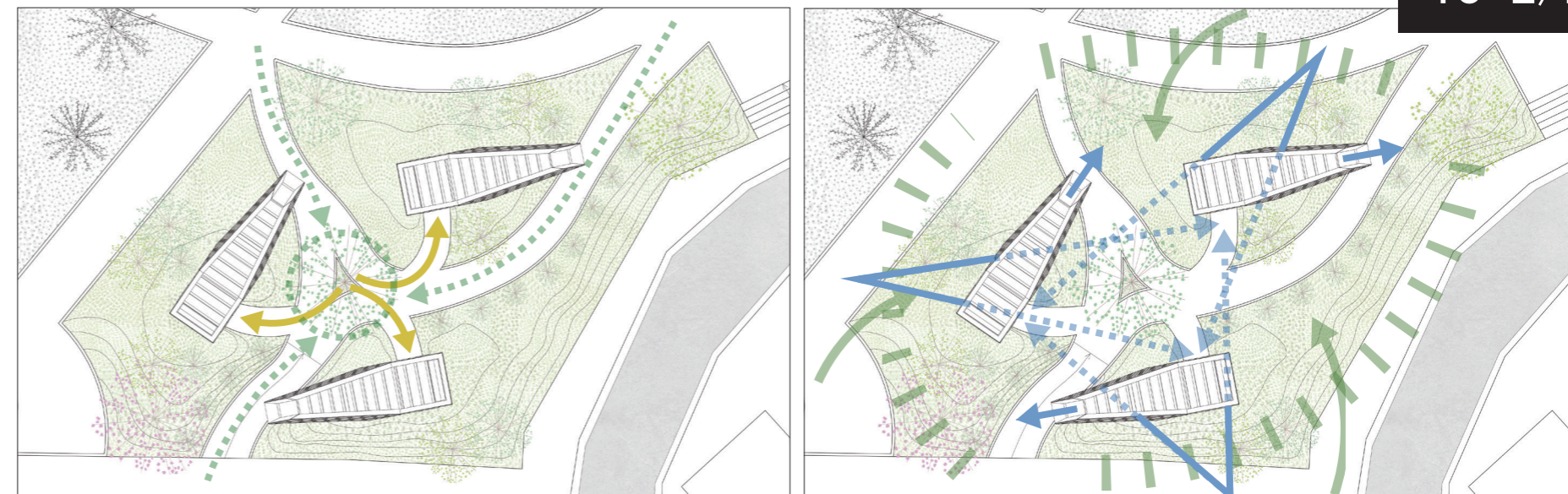
座った状態で、楽に上を見るときの上げ角度が年齢によらず約20°であるので、座位時の眼高の平均的な高さである1180mmから20°の見上げ角度の延長線が先端の開口部の中心と交わるようにします。また、プライバシーを担保するために下端を3000mm以上に設定することで、建物の寸法が決定されます。

自然換気・自然光を取り入れたパッシブなデザイン

便器上部開閉式の天窗と先端のFIX窓の上部にわずかに設けた換気口を通じた煙突効果による自然換気を行い、臭気をこもらせないと同時に、天井面に半透明なETFE膜を用いることで内部全体に自然光を取り込み、明るく清潔感のあるトイレ空間を実現します。

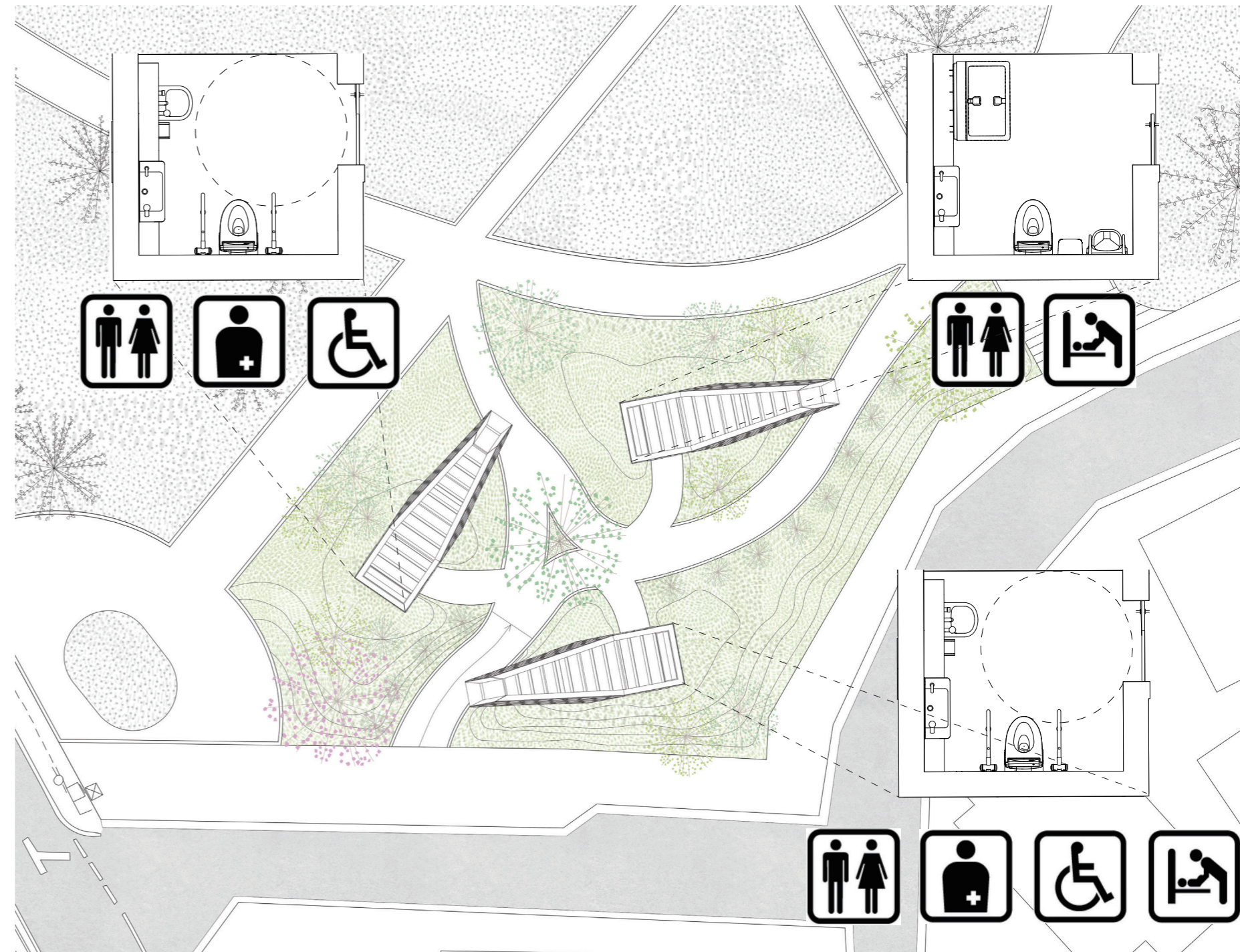


立面図 1/75



一度中心に引き込み、そこから機能分散したトイレをどれでも好きに選択して利用できる動線計画 (全て男女共用)

それぞれの個室がお互いに目隠しとなりドア付近が見えづらくなっている
周辺の建物から個室内部が見えない角度で配置されかつ個室からは異なった景色が楽しめる
緩傾斜で敷地全体が繋がれているため360度どこからでもアクセス可能で、裏表のない計画



配置図兼平面図 1/200

